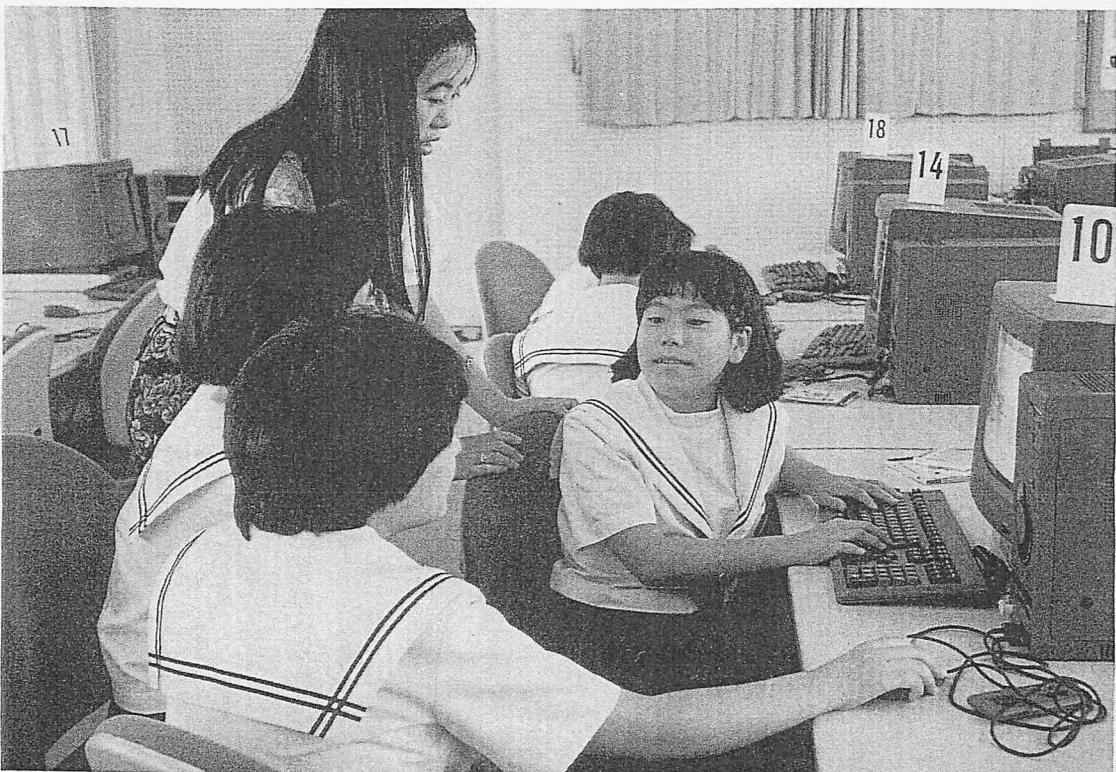


2月号

平成4年2月1日
発行／編集
岡崎市教育委員会

彼ら 彼女らの
感動 情熱 青春を運んで……
〈文化祭 合唱コンクール〉

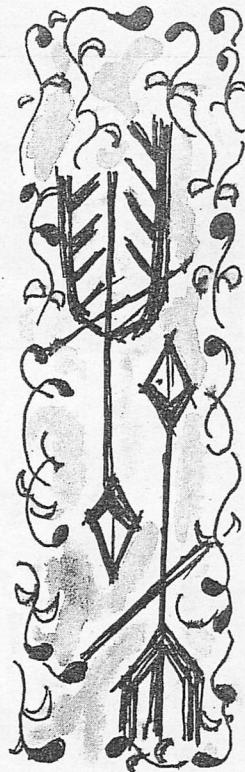
静寂
指揮者の手が上がり
ピアノが流れ
三十八人が
一斉に沈黙を破った
出番を待つ
弾けるほどの緊張感
幕が開く
光の中に立つ
鼓動が、うねりとなつて迫る



(パソコン学習 — 矢北中)

一 想 隨 教 育

指導者の心得



キヨウセイ交通大学会長

岡田全巨

指導者たるもの、自分が専門とする分野での知識・技能で卓越していることは当然のことである。だが、どんなに優秀な指導者であっても、それを常に磨かざれば、たちどころに低下するものと覚悟しなければならない。私どもの自動車学校でいえば、指導しなければならない自動車の構造は、矢継ぎ早に改良が加えられ、交通事情はますます転換し、規則も変化し、強化されていく。こうした中では、今自分がもつている知識や技能をただ低下しないよう努めるだけではなく、むしろ積極的に情報収集をし、新しい知識や指導技術の修得に全力を尽すことが肝要である。

図工の苦手な子
図工・美術科指導員
長坂正延

手を打てば下女は茶を持ち鳥は逃げ
鯉は餌と聞く猿沢の池
指導者の心得、思うがままに記してみ
たい。

一、指導者は人格者たる努力を重ねなければならない。
どんなことでも、他人を指導するといふことは容易ならぬことである。自分の考えとは異なる他人を一定の方向へ動かさず。それも無理に動かすのではなく相手が自らの意志で動くように仕向けてなければならない。そのためには、指導する者の人格が大切な要素となる。指導者の人格が、他人に尊敬されるに相応しいものであれば、もう、それだけで指導の大部 分の目的は達成されたといつても、決して過言ではない。

とはいっても、お互に人間は初めか 努力と長い年月が必要であろう。こうし

うな感動を覚えるものである。そういう指導者であれば、生徒はその人を心から慕い、指導は間違いなく大きな成果をあげるものである。

一、指導者は常に知識・技能の修得に努めなければならない。
指導者たるもの、自分が専門とする分野での知識・技能で卓越していることは当然のことである。だが、どんなに優秀な指導者であっても、それを常に磨かざれば、たちどころに低下するものと覚悟しなければならない。私どもの自動車学校でいえば、指導しなければならない自動車の構造は、矢継ぎ早に改良が加えられ、交通事情はますます転換し、規則も変化し、強化されていく。こうした中では、今自分がもつている知識や技能をただ低下しないよう努めるだけではなく、むしろ積極的に情報収集をし、新しい知識や指導技術の修得に全力を尽すことが肝要である。



一、指導する対象を熟知すること。
指導者は指導する対象者（生徒）のこ とだけでなく、全ての条件を熟知して、それらを総合的に組み合わせることを常 に心がけなければならない。

以上、私が考えている指導者への思い が身につくものである。

立派な人格を備えている指導者であれ ば、その指導者の周囲には語らずして多くの生徒が集まり、その指導者が示す方 向へ喜んで従つて行くはずである。

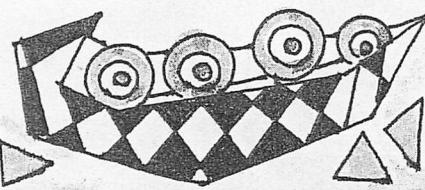
このような人格が備わるには、大変な ことはいつても、お互に人間は初めか

た最上級の指導者たる資格は難しいと ても、それに近づこうと努力をしている 人を見るとき、お互いの心が洗われるよ うな感動を覚えるものである。そういう 指導者であれば、生徒はその人を心から 慕い、指導は間違いなく大きな成果をあ げるものである。

(おかだまさお)

ふるさとシリーズ

この人に聞く



画家

服部 臣宏 氏

美川中、男川小、竜美丘小、商工会議所等々にその作品が見られる画家の服部臣宏氏のお宅をお訪ねした。

企業診断士、職業訓練指導員、一級廣告美術士の資格も有しておられる先生は、絵を描かれる以外にも講演会等で東奔西走の毎日である。背筋をピンと伸ばし、情熱あふれるお話をぶりからは、とても七十九歳とは思えない。

十三歳で男川村の役場へ住み込みで入られ、自炊生活をされたとか。その後ペンキ店に勤められたが勉学の志が捨てきれず、早稲田大学に入学され、経済学を学ばれなぞうである。

こんな心持ちから水彩画の道に足を踏み入れたのですよ。趣味の段階でどちらも、描きまくろうと決意したのが五十五歳頃でしたね。当時アトリエもなく、大きな作品は屋外制作で全力投球していました。

洋画、日本画、版画を問わず、展覧会があればどんなに遠くても見に行かれる努力を惜しまれなかつたそうである。そして、昭和五十二年、日本水彩展に出品された「広島県福山風景」が、見事文部省賞に輝いたのである。とにかく異色のものを描きたい一心で、何日も現地でこの絵に取り組んだのですよ、と熱っぽく語られた。

やる先生は、常に前向きの姿勢で物事に

と、昔を懐しむ面持ちで話された。洋画、日本画、版画を問わず、展覧会があればどんなに遠くても見に行かれる努力を惜しまれなかつたそうである。それが、未だに亡き小学校の恩師のお宅に、お盆には感謝の品を贈られていると、いうことをお聞きし、ただただ敬服するのみである。

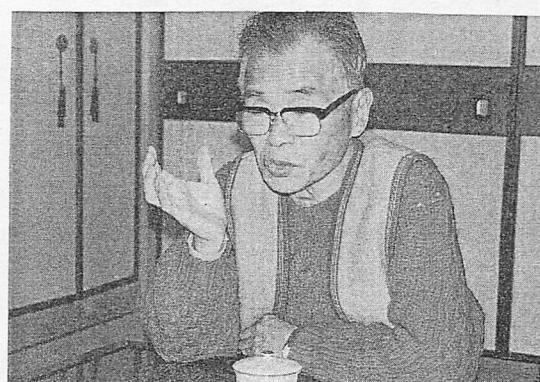
今まで描かれた絵を手放さず持つてみえるという先生の夢は、現在のアトリエを「服部臣宏の美術館」にしたいとのことである。

多くの弟子さんの絵の指導にも励んでみえる先生。ますますお若く、欲の深い人生に取り組んで行かれるであろう。題材・素材・学習過程等すべて我々の指導にかかる。

③技術的な裏付けが必要

自由に描きたいことを望んでいる子供たちも技術的な裏付けがないと描けない。描けないから嫌いになる。対象をよく見て、その形が描けることは必要であり、特に高学年ではその気持ちが強い。

クロッキーを続けたい。息の長い継続学習が子供たちに自信をつけさせる。



二十三歳の時に、裸婦のデッサンで愛知県知事賞を受賞された。大学でも美術の専門の勉強を受けたことのない先生が、受賞されるにあたっての御努力はどうであつたかをお尋ねした。

「人に克つより自分に克てと常に自分に言い聞かせ、頑張つたのですよ。寸暇を惜しみ、電車の中で人の腰掛けているところを描きましたね。」

文ポスターでも、一位を受賞された。画家としての道に生きようと決心されたのは、驚いたことに五十歳を過ぎてからのこと。

「死んだ後にも何かを残しておきたい。

まらず、描きまくろうと決意したのが五十五歳頃でしたね。アトリエもなく、大きな作品は屋外制作で全力投球していました。

と、昔を懐しむ面持ちで話された。

取り組まれ、現在は電子オルガンの練習にも励んでおられるという。

「敬人愛人」を座右の銘とされている先生は、未だに亡き小学校の恩師のお宅に、お盆には感謝の品を贈られていると、いうことをお聞きし、ただただ敬服するのみである。

これまで描かれた絵を手放さず持つてみえるという先生の夢は、現在のアトリエを「服部臣宏の美術館」にしたいとのことです。

①色で描くということ
色の濁った絵が多い。濁った色でも平気な子供たちが心配だ。同じ緑でも葉っぱにはいろいろな緑色があること、同じように紅葉でも実際に様々な赤があることなど、まず自然を見つめさせ、色の再発見をさせたい。

「わあ、色つてきれいだなあ」

初めて絵の具を使つた時のあの感動を忘れないでいたい。そして、線で描くというよりも色で描かせよう。色彩に感情が託され、情感のにじみ出た作品を目指したいと思う。

をあげられるべく次の三点について述べたい。

②色で描くということ

色の濁った絵が多い。濁った色でも平気な子供たちが心配だ。同じ緑でも葉っぱにはいろいろな緑色があること、同じように紅葉でも実際に様々な赤があることなど、まず自然を見つめさせ、色の再発見をさせたい。

氏名 はつとり しんこう
生年月日 大正二年一月十五日
住所 岡崎市大西二丁目一九一三



▲ 菅生川付近では、まれにカワセミも見ることができる。

活動は月一回の定例会（市内六か所）の他、季節に応じて特別企画を組んだり、「日本鳥の会愛知県支部」「西三河野鳥の会」との合同探鳥会を行ったりしている。

探鳥会には毎回二十名前後が参加、小学生からお年寄りまで年齢もさまざま、家族連れや会員以外の方も多く見られる。

会は、簡単な自己紹介の後、世話役の方の案内で観察が始まり、望遠鏡で鳥の姿を追い、その名前や数をチェックしながら少しづつボイントを移動させていく。そして、その都度、鳴き声や飛び方、体の特徴などを分かりやすく解説してくださるので、全く初心者でも、探鳥会のすばらしさを十分満喫できる。

観察時間はポイントによって異なるが、早朝探鳥会の場合は一時間くらい、東公園や大平川では、三時間のコースで実施されている。

最後に再び全員が集まり、世話役の司会で観察した野鳥の種類や数を報告し合う「鳥合わせ」が行われ、一人ひとりがチェックリストに記入していく。東公園の場合、一月二～五日までの四日間で、三十四種もの野鳥が観察できた。その成果や参加者の感想などは、月刊の会報「はくせきれい」に掲載され、貴重な記録として累積されている。

会が結成されてまだ三年目に入ったところであるが、野鳥との語らいが、自然を守り育てていこうとする人々の輪を大きく膨らませつつある。

身近に見られる野鳥の観察を通して、地域の自然を見つめ直し守っていくこと、地道な活動を続けているグループの一つに「岡崎野鳥の会」（会員数約三百名）がある。

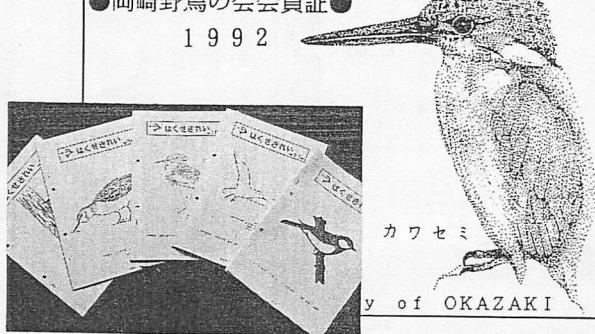
東公園で1月(2日～5日の4日間)に観察できた野鳥

カワウ	普留	ビンズイ	普冬	カワラヒワ	普留
コサギ	普留	ヒヨドリ	普留	イカル	普冬
マガモ	普冬	モズ	普留	シメ	普冬
カルガモ	普留	ルリビタキ	少冬	スズメ	普留
オナガガモ	普冬	ジョウビタキ	普冬	ムクドリ	普留
オオタカ	少留	シロハラ	少冬	カケス	普冬
ハイタカ	希	ツグミ	普冬	ハシブトカラス	普留
ノスリ	少冬	ウグイス	少夏	ハシボソカラス	普留
キジバト	普留	エナガ	普留		
アカゲラ	少留	ヤマガラ	普留		
コゲラ	普留	シジュウカラ	普留		
ハクセキレイ	普冬	メジロ	普留		
セグロセキレイ	普留	アオジ	普冬		

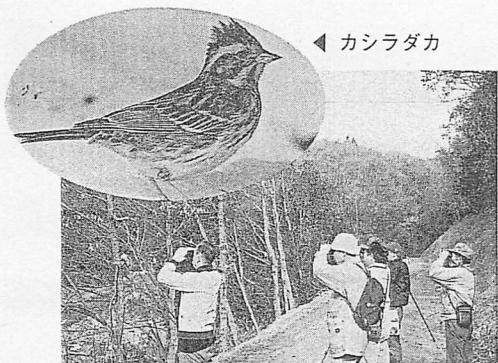
普…普段よく見られる
少…数は少ない
希…まれに見られる
留…留鳥
冬…冬鳥
夏…夏鳥

●岡崎野鳥の会会員証●

1992



▲月刊の会報「はくせきれい」



◀ カシラダカ

▲ 昨年12月の特別企画として行われた小美探鳥会。



常磐田口の牧場付近。
牧場という環境が、珍しい野鳥を見せてくれる。

ヤマシギ ▶



▲ 菅生川探鳥会は、
毎月第4曜日に行われている。

◀ ユリカモメ

◀ 定例会及び特別企画(冬季)の
観察ポイント

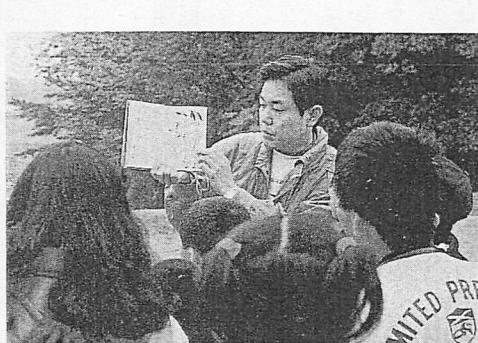
▲ 東公園での「鳥
合わせ」風景。

◀ ルリビタキ



▲ 丸岡橋付近は、オシドリ、
オオタカなどが姿を現す。
三河でも一級の探鳥ポイントである。

◀ オシドリ



▲ 竜美丘公園探鳥会で、熱心に説明を受ける小学生たち。どの会にも必ず小学生の姿が見られた。



しつぼにしてインディアンになる子。そのシダの形から子供たちは、いろんなものを想像し、遊びはじめる。

「先生も遊ぼう。」

そう言って、N夫がシダの葉を飛ばした。これがまさしく飛んだのである。四メートルほど離れた私の所まで、空気に乗り

グライダーになつたシダの葉が飛んできた。これ目に入つた子供たちが、シダの飛行機を飛ばそうとはじめた。ところが、どれも飛ぶわけではない。そこで、どの葉がよく飛ぶのか考えはじめた。葉の大きさ、茎の長さや曲がり、細い葉のつき方等シダの葉のつくりまで、目を向けることになる。ここで、本当の観察がはじまり、シダの葉の想像遊びから創造遊びへと変化していく。

常磐南小、藤井 博子
「うわあ、飛んだ。」「先生、葉っぱの飛行機だよ。」「シダの葉が、こんなに飛ぶとは、想像もつかなかつたのであらう。」

常磐南小は、あふれるほどの自然に囲まれている。その自然を生かし、常南タイムという自然観察の時間が、週に一度設けられている。一年生の観察するものは草花で、シダの観察にかけたわけである。

うす暗い木々の間に数え切れないのでシダが生えている。そのシダの葉を取り、頭につけてテレビ漫画のヒーローになる子、教えてもらったのだろうか、実

に手際よく作つては遊んでいる。

飛行機遊びから次の遊びへと目を向けた他の子供たちが、次

第にK夫の周りに集まつていく。

その中でK夫は、生き生きとした様子で、作り方を教えていた。

K夫が教室で、瞳を輝かす日も遠くないと確信した。

森は、まさしく子供を育むおもちゃ箱である。

野小では、学区のお年寄りがジヤガイモやサツマイモの苗をわけてくれたり、その植え方や育て方を教えてくださつたりして、交流を深めている。春には、毎年三年生にイチゴ摘みをさせてくださつっている。

今年は、一年生にイチゴの苗のプレゼント。十一月の下旬、赤い甘いイチゴを夢見て苗植えをした。数名の子は家で手伝つたことがあるものの、ほとんどの子が初めての経験であった。「水は三日おきにやつてください。やさしく育ててください」と、最後におっしゃった。

十二月のある日、

「先生、イチゴの花が咲いたよ」と、A子の歡声。いつしょにかけつけると、寒さに負けず、白く小さな花が一つ。「本当に咲いたね。でも、今咲く花は取つてしまわないといけないんだって。」

「そんなんのかわいそうだよ。」

「今咲くと、小さなイチゴしかならないんだって。大きなイチゴがなるようにするために、取つてしまわないといけ

ないんだって。」

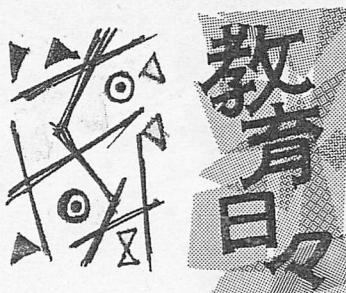
と、Iさんに教えていただいたことを話すと、「ふうん」。

と言いながら、何か腑に落ちない様子である。言われた

とおりに、花を取つてやると、A子は大事そうに持つて帰つていった。

水や肥料を与え、やさしく育ててきたのに、せつかく咲いた花を摘み取ることは、A子には耐えられないことであつた。A子には、うまく説明できなかつたが、A子の心の中に咲いたやさしい気持ちは摘み取ることなく、育てていきたいと思つた。

きょうもA子は水やりを続けている。



イチゴの花

北野小 横原 昌子

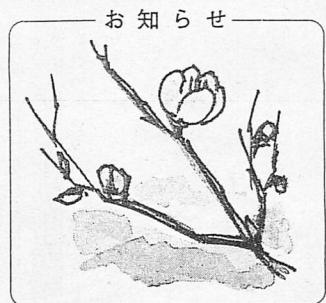
「おじいちゃん、これでいいの」と、イチゴを植えた重い鉢をしつかり胸に抱き、見せる子。

「きれいに植えたね。」「あともう少し深く植えるといよ。」

「そんなんのかわいそうだよ。」

「今咲くと、小さなイチゴしかならないんだって。大きなイチゴがなるようにするために、取つてしまわないといけ





〔寄贈刊行物・資料等〕

◆スポーツに恋をして

「燃え続ける矢田香子先生」

〔スポーツに恋をして〕

編集委員会

A5 一六三ページ

◆おつかさんの涙

上地小学校長 岩田 稔

B5 六五ページ

上地小学校

上地小

吉田 千鶴

高橋 治朗

岡本きみゑ

近藤 文彦

天野 良則

高鍵 利行

山田 賢平

葵中

福岡中

竜南中

南中

高村 淑子

吉田 文香

高橋 傑

同校は、本年度から文部省より、「新たな部活動のあり方」の研究委嘱を受けており、推進しているところである。

「今この時、君は輝く」をテ

トマに、本年度設立されたアーチエリー部を始め、運動部二十

部それぞれの活気があふれた実

演発表が行われた。

また、中京大学新体操部、岡

市居合道連盟、愛知県なぎな

連盟の会員が特別出演し、見

事な演技を披露した。

五位	竜海中(二七分四三秒)
----	-------------

上地小	高橋由美子
上地小	鶴田 秀幸
上地小	吉田 千鶴
上地小	高山 治朗
上地小	岡本きみゑ

葵中	天野 良則
福岡中	高鍵 利行
竜南中	山田 賢平
南中	天野 良則
高橋 傑	吉田 文香

（佳作 二十四点）

平成三年度愛知県中学校軟式
クール
・愛知図書館協会賞
・竜美丘小 三年 高橋 傑
附属中 三年 吉田 文香

（佳作 二十四点）
作品コンクール
本年度の県自作OHP・TP
作品コンクールの審査結果が十
二月十日発表された。本年度の

（佳作 二十四点）
少年消防クラブ県表彰
去る十一月二十六日、県庁で
少年消防クラブ員防火作品展の
入賞と優良少年消防クラブ指導者

（佳作 二十四点）

（優良少年消防クラブ指導者）

（全国少年消防クラブ運営指導

安全協会連合会長賞）

協議会県支部表彰

大樹寺小 矢田敏行教頭

・都道府県教育長協議会幹事長賞

（作文の部）

全国児童才能開発コンテスト

（作文の部）

・表紙写真
・表紙詩
・カット

矢北 中
矢作 中
鳥居 三津井
藤是 嗣秀
典郎 夫

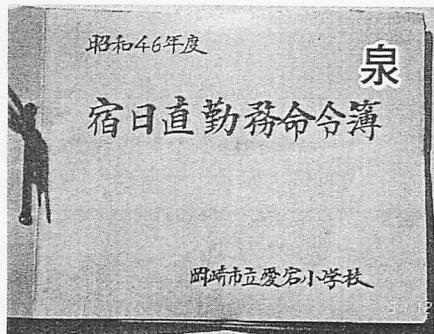
小中学校の施設設備の管理は、長い間教職員による宿日直勤務によって確保されてきた。しかし、教育効果の向上を図る上から教職員の宿日直勤務の軽減、廃止が考えられた。昭和四十三年度から、教職員の負担軽減として宿日直廃止に着手し、四十七年度に市内の全小中学校の廃止が完了した。ここに紹介したもののは、昭和四十六年度の「宿日直勤務命令簿」である。

昭和六十一年からは、より安全な警備委託制に切り替えられ、学校無人化が実現した。これに

より、職員室に警備機器が設置され、火災に対しても全館、侵入に対しては職員室・校長室・理科室などに限って、異常発生と同時に警備保障会社のコントロールセンターへ二十四時間常時オンラインで送信されるようになつた。

かつて宿日直勤務を経験された先生からは、夜中に緊張しながら巡回したこと、宿直室が憩いの場となり、若い先生が集まり、遅くまで話がはずんだことができた。

「鬼」は、「隠(おん)」が変化したもので、目に見えないものの意が本意であるという。怖さや無気味さの象徴のようだが、我々の感覚では案外親しみのある存在もある。節分の鬼は愛敬があるし、「仕事の鬼」や「土俵の鬼」など畏敬の対象ですらある。時には、我々自身も鬼にならねばなるまい。



愛宕小学校

宿日直勤務命令簿



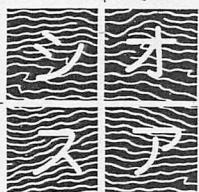
* 風塵抄	司馬遼太郎
中央公論社	¥1200
* 林先生に伝えたいこと	灰谷健次郎
新潮社	¥1200
* 人生にこの言葉を持て	本多光太郎
中経出版	¥1300
* 今を深く生きるために	中野孝次
海竜社	¥1300

※ヒト不足社会	N H K 取材班
日本放送出版協会	¥1200

所得水準の向上とヒト不足の進行は、日本社会を根底から変えようとしている。超売り手市場の中で企業への帰属意識は薄れ、転職もさほど珍しくない時代が到来した。

ゆとりと豊かさを求める生活大國日本は、進路をどこに求めるのか。ヒト不足の解消を安易に外国人労働者に頼る前に、日本自身がしなければならないことは何なのか。これらに対する本書の提言は、示唆に富む。

新春の特別企画として行われた探鳥会に同行。望遠鏡を通して映し出される野鳥たちの愛らしいしぐさや、周りの自然に見事に調和した美しい羽根の色に、取材を忘れ、つい見入ってしまう。わずか三時間ほどの体験であつたが、野鳥たちにトリつかれた会員の方々の思いを垣間見たような気がした。



スズメ、スズメ、

お宿はどこだ……

アメリカのブッシュ大統領が来日した際、思いがけず、その車列に遭遇した。歩道にはロープが張られ、一メートルおきに厳しい表情で立っている警官。物々しい警戒ぶりに異様な空気が漂う。ほんの一瞬のうちに通り過ぎたりムジンを見送りながら、世界を動かす人間の重みを肌で感じた。

身近な野鳥であろう。あまりにも見慣れているせいか、ふだんは気に止める人もいない。けれども、改めて双眼鏡でズズメのしぐさを見てみると、愛らしい野鳥

の代表ではないかとさえ思えてくる。